岩手医科大学報
IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

2024. 3
No. 552

前理事長　小川　彰　先生（享年76）におかれましては、令和6年3月3日（日）午後9時46分、本学附属病院において逝去されました。

ここに生前の多大なるご功績を称えるとともに哀悼の誠を捧げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

主な内容

特集――岩手医科大学発ベンチャー
トピックス――最終講義が行われました
トピックスプラス――卒業式が挙行されました
募金状況報告
前理事長 小川 彰 先生の逝去について

表紙写真：故 小川 彰 先生（関連記事P.16）

Iwate Medical University

特集

岩手医科大学発ベンチャー

本学における大学発ベンチャーの円滑かつ適正な支援を図り、本学の研究成果の社会実装を促進する為、令和5年7月に大学発ベンチャーの認定に関する規程が制定されました。本号では、制度と認定を受け設立された企業をご紹介します。

大学発ベンチャーとは？

本学では、大学発ベンチャーの円滑かつ適正な支援を図り、研究成果の社会実装を促進することを目的として、令和5年7月11日に大学発ベンチャーの認定に関する規程を制定しました。

「大学発ベンチャー」とは、大学の研究成果を技術シーズとして事業化・創業を行う事業主体のことを指します。大学、公的試験研究機関等の研究者、学生等が兼業等により事業活動を行い創業する、または、大学等の研究成果を技術移転して創業する場合などがあり、経済産業省では、以下のいずれかに当てはまる企業と定義しています。

1	研究成果ベンチャー	大学で達成された研究成果に基づく特許や新たな技術・ビジネス手法を事業化する目的で新規に設立されたベンチャー
2	共同研究ベンチャー	創業者の持つ技術やノウハウを事業化するために、設立５年以内に大学と共同研究等を行ったベンチャー（設立時点では大学と特段の関係がなかったものも含む）
3	技術移転ベンチャー	既存事業を維持・発展させるため、設立５年以内に大学から技術移転等を受けたベンチャー（設立時点では大学と特段の関係がなかったものも含む）
4	学生ベンチャー	大学と深い関連のある学生ベンチャー。現役の学生が関係する（した）もののみが対象
5	関連ベンチャー	大学からの出資がある等その他、大学と深い関連のあるベンチャー

■ 注目されている理由

経済産業省は日本経済の持続的な発展のためイノベーションの連続的な創出が必要であるとし、大学に潜在する研究成果を活用して新市場の創出を目指す大学発ベンチャーはイノベーションの担い手として注目されています。そのため、昨今では大学発ベンチャーの更なる創出や成長を推進するような取り組みが国によって推奨されています。

大学の本来的な使命の一つとして、研究活動と研究成果の社会への還元が挙げられます。大学発ベンチャーの起業はその目的に合致するものであり、大学の持つ研究力、技術力を外部にアピールするチャンスにもなり得ます。

■ 認定されるとどのような支援を受けられるのでしょう？

岩手医科大学発ベンチャーとして認定された企業は、認定企業である旨の称号が授与され、大学のネームバリューによる社会的信用を事業活動に用いること、希望すれば大学から以下のような支援を受けることが可能となります。

1 本学が所有する研究施設・設備等の利用許可

大学が所有する研究施設や設備といった資源は研究活動に用いる目的で整備されたものであり、特定の企業に使用させることはありませんが、認定企業は、契約に基づき企業の営利活動への利用許可を受けることができます。

2 起業後の経営等に関する専門家への相談の斡旋

大学発ベンチャーは研究者や学生による企業であることから、ビジネス面でのマーケティング能力やマネジメント能力が一般企業に劣ることが考えられます。このような点について専門家の助言を希望する場合、外部専門家への相談の斡旋を受けることができます。

3 本学のホームページ等における認定企業の広報

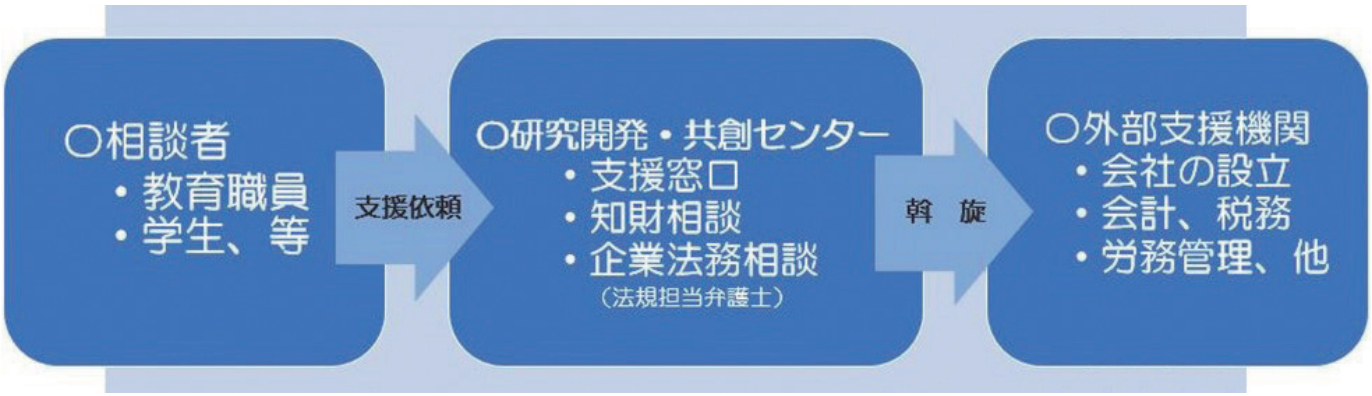
認定企業は、本学のホームページ上にて企業名、代表者、事業内容を掲載しており、企業のホームページへのリンクも掲載しています。

4 本学に帰属する知的財産権等の実施許諾

本学が保有している特許等の知的財産権や研究成果に関して、認定企業が実施もしくは利用したい場合、一般企業と同様有償ではありますが、優先的に実施（利用）許諾を受けることができます。

■ 認定を希望する方は？

岩手医科大学発ベンチャーを認定するにあたって、企業理念、事業計画、リスク管理などの視点から審査が行われます。認定を希望される企業は、研究開発・共創センターに必要書類をそろえて提出する必要があります。制度についてのお問い合わせは研究開発・共創センター（研究助成課：内線 5530）までお願いします。

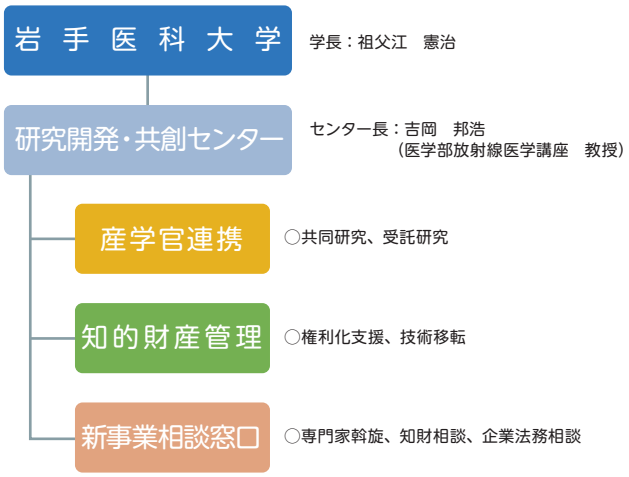


研究開発・共創センター

大学発ベンチャーの支援を行っている当センターは、令和５年４月に新設されました。本学の知的財産、産学官連携等に関する業務を行い、産学官連携を通じた学術研究の振興と成果の社会還元を推進、統括しています。

■ 組織概要

研究開発・共創センターは、知的財産本部、リエゾンセンターを前身として令和５年４月より設置されました。企業、行政、地域社会、大学などの多様な立場・知識・視点を掛け合わせる HUB として機能しながら、産学官連携を通じた学術研究の振興と成果の社会還元を推進し、統括することを目的としています。組織構成としては、学長直轄の全学組織として本センターが設置され、業務をセンター長と研究助成課産学連携・知財係が担当します。



■ 主な業務内容

研究開発・共創センターでは、本学の知的財産、産学官連携等に関する方針の下に以下の業務を統括します。

1 知的財産戦略・政策の企画立案・基盤整備

本学の知的財産戦略・政策を企画・立案し、知的財産ポリシー等諸規程の制定に必要な基盤を整備します。

2 発明相談・特許出願支援・管理

本学の研究者による優れた知的財産を発掘し、またはその創出を支援し、発明の市場評価、特許等への出願、登録後の維持管理を実施するとともに、企業等との共同出願等に関する調整を行います。

3 産学官連携研究支援

本学の研究資源と企業ニーズとのマッチングを行い、企業等との共同研究、受託研究、治験等の橋渡しを行い、産学官連携による円滑な研究開発を支援します。

4 技術移転・新事業創出支援

本学において創造された知的財産について情報を発信するなど、社会で活用するための支援を行い、企業への円滑な技術移転や新事業の創出を支援します。

5 知財教育

知的財産に関する教育を推進し、研究の高度化を図るとともに、本学の教職員や学生に対する普及啓発活動を行います。

認定企業紹介

令和6年3月時点で大学発ベンチャーに認定されている企業は2社あります。第1号は生体情報解析部門清水 厚志 教授が設立したエピクロノス株式会社、第2号は内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野仲 哲治教授の研究チームが設立した ONSSI 株式会社です。

■ エピクロノス株式会社

会社概要

当社は生体情報解析部門の教員4名が出資者となり、2023 年 8 月に設立したエピゲノム情報を活用した健康長寿社会への貢献を目指したベンチャー企業です。

生体情報解析部門は日本人に特化したエピゲノム年齢測定方法を世界で初めて確立し、その成果は国際医学誌の The Lancet Healthy Longevity に掲載されました。2023 年の第 23 回日本抗加齢医学会総会では当社 CEO の清水がエピゲノム年齢測定方法に関する発表で最優秀演題賞を受賞しました。

当社では利用者自らが生活習慣の影響を受ける生物学的年齢を知ることで健康維持ができる生活習慣改善プログラムやサービスを早期に展開する予定です。また、将来的にはエピゲノム年齢だけではなく、早期発見の難しいがん等の疾患を対象とした疾患エピゲノムマーカーの社会実装も目指しています。共創の精神で様々な企業やパートナーとともにアカデミア発の技術を社会に還元していきます。

生体情報解析部門
清水 厚志 教授

エピゲノム年齢サービス

当社の小巻（生体情報解析部門講師）らが開発したエピゲノム年齢推定法※1は、東北メディカル・メガバンク計画で収集した日本人のエピゲノムデータを利用して作成しており、235 ヶ所のエピゲノム情報（DNA メチル化情報）から体内年齢を推定することができます。エピゲノム年齢は暦年齢と相関しますが、生活習慣によって個人ごとに暦年齢よりも高い、または低い値を示す場合があります。このエピゲノム年齢の暦年齢からの逸脱は老化状態や健康状態を反映することが示されており、実際に 110 歳を超えるスーパーセンチナリアンのエピゲノム年齢は若く維持されていました。このようにエピゲノム年齢を健康指標とした活用が始まっています。

疾患マーカーサービス

当社の大桃（生体情報解析部門特任准教授）らは腎細胞がん患者（ccRCC 群）および、ccRCC を罹患していない健常者（対照群）の全血由来 DNA におけるエピゲノム解析（DNA メチル化解析）を行い、ccRCC 群で統計学的に有意にエピゲノム状態が変動している場所が 5 番染色体上に 6 ヶ所存在することを特定しました($p < 1.59 \times 10^{-8}$)。これら 6 ヶ所の DNA メチル化レベルが、ccRCC の検出に非常に有用であることが示されました（AUC-ROC = 0.922）※2。今後、当該 ccRCC マーカーの有用性について、前向きコホート検体を用いた検証を行い、サービスを展開する予定です。

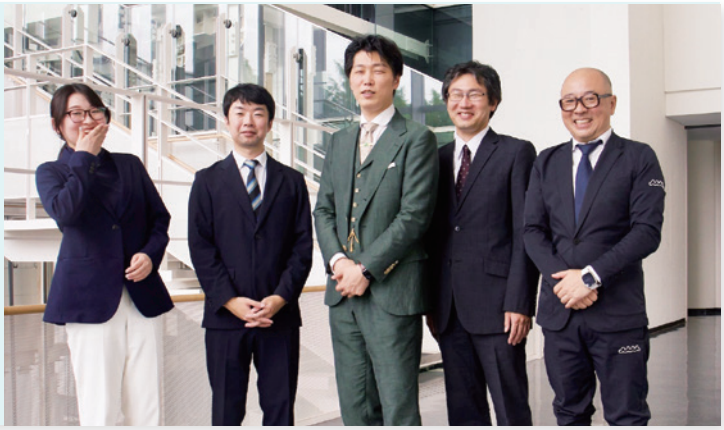
※ 1: Komaki S et al. *Lancet Healthy Longev*. 4:e83-e90(2023)

※ 2: Ohmomo H et al. *Epigenetics Commun*. 2:2 (2022).

メンバー紹介

左から

立石　日菜子（エピクロノス広報担当）
小巻　翔平（生体情報解析部門講師）
清水　厚志 代表取締役 CEO（生体情報解析部門教授）
大桃　秀樹（生体情報解析部門特任准教授）
荒木　重則 取締役 COO（生体情報解析部門非常勤講師）



■ ONSSI 株式会社

会社概要

ONSSI 株式会社は、岩手医科大学医学部内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野　仲哲治教授研究チームによる研究成果の実用化を目的として設立された大学発の“創薬ベンチャー企業”です。ONSSI 株式会社は 2019 年 8 月に設立されておりましたが、このたび、研究シーズの社会実装に本格的に取り組んでいくために、2023 年 8 月にリウマチ・膠原病・アレルギー内科分野の鈴木悠地特任講師が代表取締役として就任しました。

内科学講座
リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野
鈴木 悠地 特任講師

創薬ベンチャー企業の役割

創薬ベンチャー企業の役割の一つは、アカデミアで生まれた研究シーズを企業に受け渡すまでの事業開発です。アカデミアが創薬シーズを同定し、企業に実用化を期待する段階と、企業が事業化を検討する段階、両者の間には大きなギャップが存在します。そのギャップとは、アカデミアが見出した創薬シーズについて企業が事業化を考えるまでには、多くの場合、サルなどを用いた安全性試験に加え治験薬の製造およびヒトへの安全性試験の結果が求められるということです。このステージでは数十億円単位の資金が必要となることから、国からの研究費を財源とするアカデミア単独での完遂は困難を極めます。創薬ベンチャーは、ベンチャーキャピタルなど投資家から資金を調達し、知財管理、企業連携を含めた事業開発を担うことで、アカデミアと企業との橋渡しをします。

3つの創薬シーズ

ONSSI 株式会社は、難治性の悪性新生物に対する3つの創薬シーズを有しています。一つ目は、1997 年に仲教授が世界で初めてクローニングに成功し、Nature 誌に報告した分子 SOCS（suppressor of cytokine signaling）遺伝子をアデノウイルスベクターに組み込んだ遺伝子治療薬です。現在、治験薬製造は完了し、医師主導治験実施に向けた PMDA との協議を進めています。残り二つのシーズは、癌の手術検体で高発現している分子を探索するアプローチで得た、癌抗原をターゲットとする抗体薬物複合体および抗体医薬品で、進行膵臓癌や卵巣癌などを対象として事業開発を進めています。

最後に

ONSSI 株式会社は、アカデミア研究者と製薬企業のベテランのブレンドによる実践的チームにより、難治性の悪性新生物に対する新規治療法の実用化を目指してまいります。

ONSSI 株式会社　役員

鈴木 悠地
代表取締役

ONSSI 社のシーズの主たる対象疾患である消化器領域に関するサブスペシャリティと起業・経営経験を生かし、ONSSI 社の意思決定を行う。

仲 哲治
取締役

ONSSI 社創業者。
岩手医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科教授。
ONSSI 社では、研究開発、臨床試験の総括を行う。

堀内 正
取締役

慶應義塾大学病院臨床研究推進センター訪問教授、AMED 先端的バイオ創薬等基盤技術開発事業（PO）。
製薬企業（第一三共）での研究開発の経験を活かし、ONSSI 社では主に事業開発を担当。

世良田 聡
取締役

岩手医科大学医歯薬総合研究所分子病態解析部門准教授。
仲哲治研究室での研究開発を担い、ONSSI 社では受託解析業務等を担当。

大杉 義征
相談役

ONSSI 社創業者。
大杉バイオファーマコンサルティング会長。
中外製薬在任時に日本初の抗体医薬品 IL-6 阻害剤「アクテムラ」の開発に成功。
ONSSI 社では主に知財管理を担当。

令和6年度一般入学試験・大学入学共通テスト利用入学試験が行われました

令和６年度岩手医科大学入学試験は以下の通り行われました。

入試区分	日　程	志願者数
医学部一般・地域枠 C,D（一次）	1月17日(水)	2,466 名
医学部一般・地域枠 C,D（二次）	1月26日(金) 1月27日(土)	
歯学部一般・共通テスト利用・医学部入学試験利用（前期）	2月 2日(金)	51 名
薬学部一般・共通テスト利用（前期）	2月 2日(金)	67 名
看護学部一般（前期）	2月 5日(月)	98 名
歯学部一般・共通テスト利用・医学部入学試験利用（後期）	3月11日(月)	42 名
薬学部一般・共通テスト利用（後期）	3月11日(月)	9 名
看護学部一般（後期）	3月11日(月)	10 名

医学部一般一次試験 東京会場（ベルサール高田馬場）

薬学部実務実習成果発表会が開催されました

2月17日（土）、大堀記念講堂ホワイエにおいて、薬学部第5学年54名を対象とした実務実習成果発表会が開催されました。実習先の指導薬剤師にも多数来場頂き、4年ぶりにポスター発表形式での一斉開催となりました。

思い溢れる学生の発表とその後の活発な質疑応答により、時間超過の発表も続出しました。松浦実務実習部会長は、「成果発表会を通じて、実体験が学生の成長に大きく寄与することを改めて実感し、薬学教育における実務実習の重要性を再認識できた」と語りました。

薬局・病院での計22週間に及ぶ実務実習を経て大きく成長した学生たちの発表に、教員一同感慨深く聴き入りました。

大堀記念講堂ホワイエで行われた実務実習成果発表会

最終講義が行われました

3月1日（金）、大堀記念講堂において、3月31日付をもって定年退職される教授の最終講義が行われました。

聴講者は、各教授によるスライドや在職中のエピソードなどを交えた熱心な講義に耳を傾け、名残を惜しみました。講義終了後には、職員や学生から各教授に花束が贈呈され、惜しみない拍手が送られました。

「血管発生の研究について；定説と事実の間で」

解剖学講座人体発生学分野
人見 次郎 教授

「良医を育てる検査説明実習」

臨床検査医学・感染症学講座
諏訪部 章 教授

「周産期医療にかけた36年間の大学生活」

臨床遺伝学科
福島 明宗 教授

「D体アミノ酸との出会い ー世界はアシンメトリーなものであふれているー」

薬理学講座病態制御学分野
小笠原 正人 教授

「看護実践、看護管理、看護教育を支える看護情報学」

共通基盤看護学講座
菖蒲澤 幸子 教授

「真理（まこと）から誠（まこと）へ」

人間科学科哲学分野
遠藤 寿一 教授

「医療における行動科学の役割」

人間科学科心理学・行動科学分野
相澤 文恵 教授

左から：人見教授、諏訪部教授、福島教授、小笠原教授、菖蒲澤教授、遠藤教授、相澤教授

TOPICS PLUS

卒業式が挙行されました

３月８ 日（金）、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）大ホールにおいて令和５年度岩手医科大学卒業式が厳かに挙行されました。本学役職者や教職員をはじめ、多数の保護者が出席されました。令和５年度岩手医科大学医療専門学校の卒業式は、３月１２日（火）に歯学部４階講堂で挙行され、本学校の教職員、保護者が出席されました。両卒業式共に５年ぶりに保護者出席のもと行われ、卒業生は母校の思い出と新天地への期待を胸に、医療人として決意を新たにしたようでした。

■岩手医科大学卒業式

令和５年度岩手医科大学卒業生			
医学研究科博士課程	8名	医学部	112名
医学研究科修士課程	2名	歯学部	51名
歯学研究科博士課程	6名	薬学部	39名
薬学研究科博士課程	1名	看護学部	90名

トーサイクラシックホール岩手大ホールで挙行した卒業式

学位記授与

卒業証書・学位記授与

卒業生代表宣誓

会場の様子

■医療専門学校卒業式

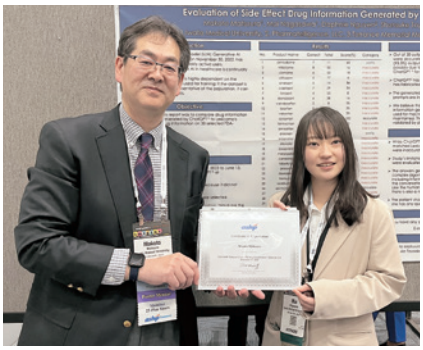
令和５年度医療専門学校卒業生：38 名

歯学部４階講堂で挙行した卒業式

卒業生代表答辞

表彰の栄誉

臨床薬学講座地域医療薬学分野の松浦 誠 特任教授が 2023 ASHP Midyear Clinical Meeting & Exposition で International Registrants Gathering & Reception Poster-Walk を受賞しました



松浦特任教授、長澤茉依さん

この度、2023年12月３日～７日まで米国カリフォルニア州アナハイムで開催されたASHP（American Society of Health-System Pharmacists）2023 Midyear Clinical Meeting and Exhibitionにおいて「Evaluation of Side Effect Drug Information Generated by Chat GPT」を発表し、International Registrants Gathering & Reception Poster-Walkを受賞しました。本演題は米国の医薬品情報データベース「Lexicomp」に搭載されている米国食品医薬品局（FDA）承認の高血圧治療薬30品目の副作用情報について、生成AIのChatGPTにより生成された内容と比較し、生成された内容の正確性について検証を行いました。その結果、一致した品目は２品目のみであり、ほとんどがLexicompと一致せず不正確な情報を生成していることを明らかにしました。医薬品情報は100％の正確さが求められることから、医薬品情報について患者さんや一般人がChatGPTに頼ることがないよう薬剤師がしっかりと情報提供や健康相談に関わる必要ががあるということを報告しました。

発表時間の間、切れ間なく多くの参加者とディスカッションを行い、さらに米国内のいくつかの業界紙からも取材を受けるなど、とてもタイムリーな内容であったことを改めて認識し、素晴らしい時間となりました。本研究の一部は薬学部５年生の長澤茉依さんの卒業研究として取り組まれており、一緒に発表を行いました。

本内容は、薬事日報（令和６年１月15日発行）の１面にも取り上げられました。

（文責：臨床薬学講座地域医療薬学分野 特任教授 松浦 誠）

法科学講座法医学分野の新津 ひさえ 助教に 岩手県警察本部長から感謝状が贈呈されました

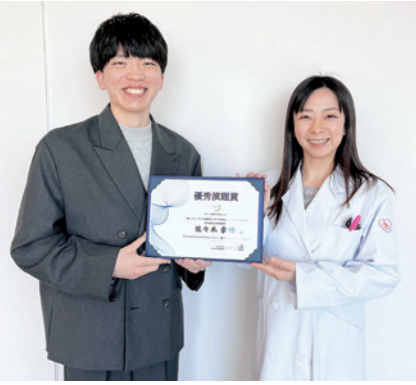
藤田専門技術員、新津助教、髙宮教授

法医学分野の新津ひさえ助教は、長年にわたり岩手県の法医解剖に関わる中毒検査業務に貢献したとして３月５日、岩手県警察本部長感謝状を授与されました。

中毒は自身の健康を損なうだけでなく家族や周囲の人に深刻な影響を及ぼすことがあり重要な社会問題です。新津助教は1979年に本学に入り、法医中毒学を専門として法医解剖事例のアルコール、一酸化炭素、医薬品を含めた薬物による中毒検査に従事し本県の死因究明、犯罪捜査に貢献してきました。これまでの検査総数は2000件以上です。３月末で本学を退職されますが、４月以降も非常勤講師として引き続き次世代の法医中毒学者の育成に当たります。

（文責：法科学講座法医学分野 教授 髙宮 正隆）

医療薬科学講座創剤学分野に配属している薬学部５年生の佐々木崇瞭さんが 日本中毒学会東日本地方会で優秀演題賞を受賞しました



佐々木崇瞭さん、杉山講師

この度、薬学部５年生の佐々木崇瞭さんが2024年２月３日に筑波大学で開催された第37回日本中毒学会東日本地方会におきまして「ラモトリギンの過量投与に対する脂肪乳剤投与に関する基礎検討」という演題で優秀演題賞を受賞しました。

本演題は、薬物を過量に服用した患者の治療に、栄養補給を目的に使用される静注用脂肪乳剤を急速投与することが有用であるとの臨床データに基づき、その作用機序を解明するための基礎的な検討を行ったものです。抗てんかん薬であるラモトリギンに対する脂肪乳剤の影響を検討した結果、脂肪乳剤の投与により血中ラモトリギン濃度は増大した一方、心臓および肝臓中の濃度が減少したことより脂肪乳剤がラモトリギンの組織分布を抑制することを明らかにしました。得られた結果は提唱されている作用機序のひとつであるlipid sink説を支持することが示唆されました。

本研究は医療薬科学講座創剤学分野に配属後、卒業研究として進めているテーマであり、救急・災害医学講座の藤田講師にもご指導を賜りました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

（文責：医療薬科学講座創剤学分野 講師 杉山 育美）

岩手医科大学報の配布部数を見直します

岩手医科大学報は、大学の運営方針、行事及び教育・研究・医療等に関する情報提供及び学内の融和を図ることを目的とし、昭和 34 年6月に岩手医大月報として第1号を発行してから名称変更、発行月の変更、デザイン・レイアウト変更等を行い、約 65 年間発行を続けてきました。現在では、職員の皆さんへ一人一部の配布を行っていましたが、経費削減の観点から、発行部数を見直し、次号（553 号）から各部署一部の配布へと変更させていただきます。これにより、年間発行費用がおおよそ半額となります。

これまで通り、大学ホームページへの掲載は続け、過去のデータを閲覧できるようにしております。人事慶弔欄等の個人情報を含む頁については、学内限定情報と電子カルテへ掲載いたします。人数が多い部署の方やゆっくりとご覧になりたい方はそちらからご覧ください。

配布部数は少なくなりますが、変わらず学内・院内の情報をより分かりやすくお伝えし、皆様の役立つ情報を提供していきますので、今後も積極的なご意見・ご寄稿をお寄せいただきますようよろしくお願いいたします。

■掲載場所

大学トップページ → 情報公開 → 岩手医科大学報（https://www.iwate-med.ac.jp/ideology/report/）

（ **個人情報を含む頁は大学・病院内端末でのみ閲覧可能**
・学内限定情報 → 岩手医科大学報
・電子カルテ → 共有フォルダ → その他 → 岩手医科大学報 ）

大学報の歴史

昭和 34 年6月5日に岩手医大月報第1号が発刊され、平成4年に本冊子の重要性を考えた当時の理事長である大堀勉先生が発行に加わり、第 304 号から「岩手医科大学報」に名称変更、同時に横書き版へ変更しました。さらに、第 341 号（平成 11 年 4 月）からは「大学報編集委員会」が立ち上がり、A4 版へ変更しました。その後、発行頻度の変更があり、第 403 号（平成 22 年 4 月）にはフルカラーへと変貌を遂げました。その後も 2 回のデザイン変更が行われ、現在に至っています。

DMAT 及び DPAT の能登半島地震被災地での活動

DMAT（災害派遣医療チーム）

岩手県高度救命救急センター　講師　小守林 靖一

年始早々に発生した能登半島地震に対して、1月8日（月）～12日（金）、1月31日（水）～2月6日（火）の計12日間、岩手医科大学の災害派遣医療チーム（DMAT）が石川県能登半島地震被災地で医療支援活動を行ってきました。医師、看護師、放射線技師、薬剤師が派遣され、一次派遣隊は石川県七尾市の公立能登総合病院内に設置された活動拠点本部に参集後、能登町役場に設置された能登町地域医療救護活動支援室の指揮の下、能登町内の施設と診療所の調査を命じられ、対応後には能登町地域医療救護活動支援室の本部機能支援や患者搬送に従事しました。二次派遣隊は珠洲市保健医療調整本部の DMAT 活動指揮所の指揮下に入りましたが、医療のフェーズから保健福祉のフェーズへの移行期ということもあり、引き継ぎや保健師と共同での調査業務、DMAT 活動指揮所の撤収業務に当たりました。

〈被災地での活動〉

七尾市より北側は土砂崩れや地割れなどが多発し、まともに走行できる道路はありませんでした。積雪などで道路の状況が分かり辛くなっている部分もあり、大学側から派遣頂いた運転手さんなしでは、我々も安全に活動できたかどうか分かりませんでした。報道にもあるように、断水や道路状況の改善は進んでおらず、復興には時間がかかるものと思われます。今回の能登半島地震の特徴は、家屋の倒壊、火災、地震発生から数分で到達する津波ですが、これらは現在危惧されている南海トラフ地震でも予想されているものであり、伊豆から宮崎まで能登半島が並ぶ、と言い換えることもできます。ここから我々が何を学び対策を進めるか、ということが必要になります。

能登町地域医療救護活動支援室でのミーティングにおいて、本部業務に従事する隊員達

〈一次派遣隊〉

医　師：小守林　靖一
看護師：辛　尚彦（西10階B病棟看護師長）、田宮　諒一（EHCU 看護師）
業務調整員：武田　雅之（中央放射線部主任診療放射線技師）、
　　小原　俊樹（薬剤部薬剤師）
※運転手：小笠原　明久（総務課技能員）、髙橋　宏治（総務課技能員）

〈二次派遣隊〉

医　師：小守林　靖一
看護師：小澤　昇（EHCU 主任看護師）、北田　成沙（救急病棟看護師）
業務調整員：髙圓　宰（薬剤部薬剤師）、阿部　裕平（中央放射線部診療放射線技師）
※運転手：小笠原　明久（総務課技能員）、髙橋　宏治（総務課技能員）

本来の車道は崖崩れや家屋の倒壊により走行することができない（発災から約1ヶ月後の様子）

本来の車道の脇に急遽設けられた迂回路を進む岩手医科大学 DMAT の車両

DPAT（災害派遣精神医療チーム）

神経精神科学講座　教授　大塚 耕太郎

令和６年１月１日（月）に発生した能登半島地震において、石川県からのDPAT派遣要請を受け、岩手県からの出動要請（DPAT第６陣派遣）により、岩手医科大学附属病院DPAT先遣隊が、１月13日（土）～18日（木）まで活動してきました。

14日（日）～16日（火）は珠洲市で、避難所訪問、在宅避難者訪問、支援者支援、珠洲市総合病院の精神科診療の支援打合せ、17日（水）は輪島市から七尾市への精神障害者の在宅避難者の入院目的の広域搬送支援、18日（木）は石川県能登中部保健福祉センター内に設置されたDPAT活動拠点本部で本部活動を行いました。珠洲市指揮所内では岩手県の保健師チームも活動しており、連携をとりました。現地では、多くの建物が倒壊し、電気・水道といったライフラインが途絶えて、道路は亀裂が多く、まだ寸断している箇所もあり、避難所では1.5次、２次避難がすすめられているところでした。

その後、１月22日に石川こころのケアセンターが設置され、石川県内のDPAT隊がこころのケアを継続されています。

拠点本部での活動

避難所訪問

〈派遣隊〉

医　師：大塚　耕太郎
保健師：赤平　美津子（災害・地域精神医学講座特命助教）
看護師：澤舘　史晃（西10階B病棟看護師）
業務調整員：舟山　道夫（岩手県こころのケアセンター）

理事会報告　（１月定例－１月29日開催）

１．名誉教授の称号授与について

諏訪部　章（臨床検査医学・感染症学講座）
人見　次郎（解剖学講座人体発生学分野）
（称号授与年月日　2024年４月１日）

２．役職者の選任について

副学長（岩手県こころのケアセンター・発達医学担当）
酒井　明夫（再任）
歯学部長　小林　琢也（再任）
薬学部長　河野　富一（再任）
看護学部長　遠藤　太（新任）
（任期　酒井副学長は、2024年４月１日から２年間、小林歯学部長、河野薬学部長及び遠藤看護学部長は、同日から３年間）

３．教員の人事について

耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座　准教授
池田　怜吉（前　同講座　講師）
口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野　准教授
川井　忠（前　同分野　講師）
（発令年月日　2024年２月１日）

衛生学公衆衛生学講座　准教授
赤坂　憲（現　大阪大学医学部附属病院卒後教育開発センター　学内講師）
共通基盤看護学講座　准教授
柏木　ゆきえ（現　同講座　特任准教授）
共通基盤看護学講座　准教授
伊藤　奈央（現　同講座　講師）
人間科学科心理学・行動科学分野　准教授
藤澤　美穂（現　同分野　講師）
（発令年月日　2024年４月１日）

４．職員の人事について

企画部長　佐藤　嘉英（現　法人事務部次長（企画担当））
財務部長　影山　雄太（現　病院事務部次長（矢巾担当））
病院事務部長　村山　裕孝（現　病院事務部次長（内丸担当））
病院事務部次長（内丸担当）　青木　慎也
（現　病院事務部地域医療連携センター事務室総括課長）
（発令年月日　2024年４月１日）

理事会報告　（２月定例－２月26日開催）

１．理事の職務担当区分について

２．役職者の選任について

全学教育推進機構長　田島　克巳（再任）
歯学部副学部長　八重柏　隆（再任）
歯学部副学部長　岸　光男（再任）
学生副部長（歯学部）　八重柏　隆（再任）
学生副部長（看護学部）　蛎﨑　奈津子（新任）
学生副部長（教養教育センター）　髙橋　史朗（新任）
岩手医科大学医療専門学校長　小林　琢也（再任）
（任期　小林岩手医科大学医療専門学校長は、2024年４月１日から３年間、岸歯学部副学部長、蛎﨑学生副部長は、同日から２年間、田島全学教育推進機構長、八重柏歯学部副学部長・学生副部長、髙橋学生副部長は、同日から１年間）

３．教員の人事について

成育看護学講座　特任教授
遊田　由希子（現　同講座　准教授）
（発令年月日　2024年４月１日）

４．就業規則の一部改正について

定年延長制度施行に伴う一般職員の職名等の取扱いの他、職員就業規則については、同制度施行に伴う一般職員の職の新設、新型コロナウイルス感染症の第５類感染症への移行に伴う特別休暇の廃止等、介護休業及び介護短時間勤務に関する規程については、介護短時間勤務における期間を削除することとし、それぞれ一部改正することを承認した。
（施行年月日　2024年４月１日）

５．歯学部の講座再編について

歯科医療のニーズが変化するなか、歯科補綴学における教育、臨床、研究は先進技術と新たな材料を用いた形態回復治療、高齢者に対する口腔形態、口腔機能の回復治療を行う方向にシフトしていることを踏まえ、実施可能な教育等の体制を構築することを目的として、補綴・インプラント学講座を歯科補綴学講座に改名し、当該講座の下に冠橋義歯・口腔インプラント学分野、有床義歯・口腔リハビリテーション学分野の２分野を設置することを承認した。
（施行年月日　2024年４月１日）

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第19回目のご芳名紹介です。（令和5年12月1日～令和6年1月31日）

■ 法人・団体等（16件）

＜1,000,000＞
株式会社　髙宮商店（岩手県盛岡市）

＜500,000＞
医療法人　誠心会　東病院（熊本県球磨郡）

＜100,000＞
レジットメディカル　株式会社　岩手支店（岩手県紫波郡）
株式会社　シノテスト（東京都千代田区）
株式会社　メッツ（岩手県盛岡市）
PSP　株式会社（東京都港区）
株式会社　ユアテック（宮城県仙台市）
株式会社　モリレイ（岩手県紫波郡）
国民健康保険葛巻病院（岩手県岩手郡）

＜50,000＞
阿部製本所（岩手県盛岡市）

＜ご芳名のみ＞
青山産業　株式会社（岩手県盛岡市）
株式会社　共立メンテナンス　東北支店（宮城県仙台市）
コセキ　株式会社　盛岡営業所（岩手県紫波郡）
丸木医科器械　株式会社（宮城県仙台市）
ルートインジャパン　株式会社（東京都品川区）
杜陵高速印刷　株式会社（岩手県盛岡市）

（順不同、敬称略）

■ 個人（30件）

＜2,000,000＞
葛　但寛（医27）

＜1,000,000＞
堀　美知子（医22）
堀　晃（医22）
塚原　正典（医19）
牧山　隆雄（医24）

＜300,000＞
増田　正純（父母）

＜100,000＞
金子　信一郎（歯3）
土肥　守（医32）
葛西　敏史（医37）
国分　令子（医23）
五島　頼子（父母）
小木田　勇輝（医35）

＜50,000＞
加藤　芳幸（歯8）

＜30,000＞
吉田　徹（父母）
遠藤　義忠（医14）

＜ご芳名のみ＞
鈴木　一幸（名誉教授）
坪田　亘基（歯29）
山本　和博（教職員）
舟山　忠博（父母）
永野　弘之（歯15）
増田　友之（名誉教授）
大庭　英樹（医46）
戸塚　盛雄（名誉教授）
佐野　公昭（医33）
萩原　千也（医42）
後藤　康文（役員）
小川　彰（役員）
松橋　文明（父母）
福島　孝弘（医48）
佐々木　真（父母）

（順不同、敬称略）

区　分	申込件数	寄付金額（円）
圭　陵　会	503	223,938,220
在学生ご父母	388	88,720,000
役員・名誉教授	48	54,370,000
教　職　員	47	7,460,000
一　般	26	488,072,572
法人・団体	305	180,905,481
合　計	1,317	1,043,466,273

（令和2年9月1日～令和6年1月31日現在）

創立120周年記念事業募金

第56回目のご芳名紹介です。（令和５年12月１日～令和６年１月31日）

■ 法人・団体等（１件）

＜ご芳名のみ＞

株式会社　シミズ・ビルライフケア（東京都中央区）

■ 個人（４件）

＜100,000＞

池田　千花（医59）

神谷　亮一（医27）

＜ご芳名のみ＞

根子　忠美（元教職員）

河田　清寛（歯３）

（順不同、敬称略）

区　分	申込件数	寄付金額（円）
圭　陵　会	1,118	673,505,089
在学生ご父母	935	552,622,000
役員・名誉教授	104	127,820,000
教　職　員	271	36,572,000
一　般	150	50,336,010
法人・団体	414	1,358,904,000
合　計	2,992	2,799,759,099

（平成26年6月1日～令和6年1月31日現在）

テナント紹介

矢巾・内丸キャンパスには多数の店舗が入店し、教職員、在学生、患者さん等へ様々なサービスを提供しています。身近だけど意外と知らなかった各テナントの紹介、おすすめやお得情報を掲載していきます。第9弾となる本号では、丸善岩手医科大学矢巾売店とYショップ岩手医大矢巾キャンパス店をご紹介します。

丸善岩手医科大学矢巾売店（矢巾キャンパス1階）

医学書、書籍、雑誌等の他に文房具も取り揃えています。
お店にない本は、インターネットでお取り寄せできます。
日々頑張る皆さまのために「5%割引」でご提供中！
当店のご利用を、スタッフ一同心よりお待ちしております。

本屋さんでアイスクリームが買える？
勉強や仕事で疲れた頭をクールダウン！
大人気の「サーティワンアイスクリーム」
大好評販売中！

MARUZEN-YUSHODO

営業時間	月～金　9：00～17：30
TEL	019-697-1651（内線：5306）
定休日	土・日・祝

Yショップ岩手医大矢巾キャンパス店（矢巾キャンパス1階）

当店では、人気の店内手づくりサンドイッチ、トクタヴェールで人気のキッチン＋ギャラリー豆のお弁当、三田アイス、医大オリジナルグッズ等、他のコンビニでは買えない商品も取り揃えています。
矢巾キャンパスにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。ご来店お待ちしております。

LINE公式アカウント

ヤマザキ Yショップ Yamazaki

営業時間	月～金　8時～17時
TEL	019-698-2765（内線：5304）
定休日	土・日・祝日

お知らせ　組織改編について

●令和6年4月1日から以下のとおり歯学部組織改編を行います。

変更後		変更前	
歯科補綴学講座	冠橋義歯・口腔インプラント学分野	補綴・インプラント学講座	補綴・インプラント学分野
	有床義歯・口腔リハビリテーション学分野		摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野

シリーズ 職場めぐり No.148

化学療法センター

化学療法センターは、看護師8名、薬剤師14名、事務職員4名で運営し、外来通院の患者さんのがん薬物療法を行う部署です。当センターでは多くの診療科から治療の依頼を受け、１日60人前後のがん薬物療法を多職種が協働し安全に実施しています。治療に伴い発生する有害事象に対する対策は多職種が協働で検討し、安心して治療を受けていただけるように努めています。治療を行い自宅で過ごされる患者さんやご家族は、社会生活を送る中で様々な不安が生じます。私たち看護師は、治療中の患者さんの思いや体調をゆっくり伺いながら対処方法を一緒に考え、患者さんが望む生活を維持できるように支援しています。アピアランスケアにも力を入れていますので、疑問などがありましたらご相談下さい。私たちは、やさしさをもって笑顔をたやさず、治療を受ける患者さんも笑顔になれるような看護を日々提供することを目指しています。

（主任看護師　澁谷 幸子）

西８階Ａ病棟

西８階Ａ病棟は、頭頸部外科・耳鼻咽喉科・口腔外科の医師と看護師・看護補助者・事務職員で構成されています。入院患者の約７割が頭頸部領域の悪性腫瘍疾患で手術だけでなく化学療法や放射線療法などの集学的治療が行われています。手術に伴うボディイメージの変化への対応や、高度で安全な医療が提供できるよう、多職種と協働し専門性を活かしたチーム医療を提供しています。さらに、認定看護師や院内認定看護師などが在籍しており、専門職業人として質の高い看護の提供のために日々努力しています。私たちは、呼吸や食事、コミュニケーションなど日常生活に不可欠な動作が困難になった患者さんの心に寄り添いながら、その方のニーズに合わせて看護師の専門的な知識や技術を発揮し、患者さんやご家族が安心して日常生活へと復帰できるよう患者指導や生活支援を行っています。一人ひとりのいのちに向き合い、やさしさと思いやりの心を持ち、「食べること」「話すこと」を大切に患者さんの気持ちに配慮した看護を提供しています。

（主任看護師　萬徳 孝子）

岩手医科大学報編集委員

影山　雄太　畠山　正充
松政　正俊　藤村　尚子
齋野　朝幸　髙橋　　慶
藤本　康之　阿部　　俊
白石　博久　杉下　佳子
佐藤　泰生　石森　由樹
佐藤　　仁　菊池いな子
藤澤　美穂　最上　玲子
塩山　亜紀　髙橋　淳美
細田留美子　阿部　祥子

編集後記

3月は卒業、旅立ちそして別れの季節ですが、あまりにも悲しいお知らせをしなければなりません、本学理事長の小川　彰先生が逝去されました。まさに巨星落つです。先生は医学部長、学長を歴任され、理事長として附属病院の矢巾移転など大事業を成功させ、岩手医科大学の発展に多大な貢献をされました。その間、東日本大震災からの医療の復興など大変な激務を遂行されました。また先生は平泉中尊寺で行われる薪能（たきぎのう）の薪奉行をお務めになるなど岩手の伝統文化にも貢献されました。先生は御自宅でも暖かい薪ストーブを愛用されていたそうです。どうか天国では激務から開放されて安らかにお休みください。職員一同、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（編集委員 佐藤 仁）

岩手医科大学報　第552号

発行年月日／令和６年３月31日
発　行／学校法人岩手医科大学
編　集／岩手医科大学報編集委員会
事務局／法人事務部　総務課
TEL. 019-651-5111（内線5452、5453）
FAX. 019-907-2448
E-mail:kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印　刷／河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

前理事長 小川 彰 先生の逝去について

学校法人岩手医科大学前理事長の小川彰先生におかれましては、令和6年3月3日（日）午後9時46分、本学附属病院にて逝去されました。享年76でした。

先生は、昭和24年3月に宮城県でお生まれになり、本学で学生時代を過ごされた後、東北大学、国立国府台病院、国立仙台病院での勤務、米国バロー神経研究所（アリゾナ大学）への留学を経て、平成4年10月に母校である本学に赴任されました。脳神経外科学講座の教授として日々教育・研究・診療に奔走され、平成15年4月に医学部長、平成20年1月に第10代学長に就任され大学の発展にご尽力されました。平成24年2月には第8代理事長に就任され、東日本大震災後の地域医療の再生、看護学部の開設、附属病院の矢巾町移転等に注力し、幾多の大事業を推進させ、今日の本学の雄姿を築き上げました。学外においても（一社）全国医学部長病院長会議会長、（一社）日本私立医科大学協会会長として全国の医学会の発展に寄与されました。ここに生前の多大なるご功績を称えるとともに哀悼の誠を捧げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

【略　歴】

昭和49年３月	岩手医科大学医学部卒業
昭和49年５月	東北大学医学部脳疾患研究施設脳神経外科 臨床研修医（昭和51年６月まで）
昭和51年６月	東北大学医学部脳疾患研究施設脳神経外科医員 （昭和57年１月まで）
昭和53年12月	国立国府台病院厚生技官（昭和57年２月まで）
昭和57年２月	国立仙台病院厚生技官（昭和63年４月まで）
昭和59年４月	東北大学医学部脳疾患研究施設脳神経外科 部門講師併任（昭和63年４月まで）
昭和60年10月	国立仙台病院第二脳神経外科医長 （昭和63年４月まで）
昭和61年６月	国立仙台病院臨床研究部脳神経研究室長 （昭和63年４月まで）
昭和63年５月	東北大学医学部脳疾患研究施設脳神経外科 部門助教授（平成４年９月まで） 東北大学医学部附属病院脳神経外科副科長 （平成４年９月まで）
平成３年３月	米国バロー神経研究所（アリゾナ大学）留学 （平成４年２月まで）
平成４年10月	岩手医科大学医学部脳神経外科学講座教授 （平成20年３月まで）
平成４年11月	岩手医科大学高圧タンク室長 （平成16年３月まで）
平成６年12月	岩手医科大学脳ドック室長（平成９年11月まで）
平成８年４月	岩手医科大学サイクロトロンセンター長 （平成17年３月まで）
平成11年４月	岩手医科大学医学部教務委員長 （平成15年３月まで）
平成12年３月	岩手医科大学先端医療研究センター超高磁場 ＭＲＩ研究施設長（平成15年３月まで）
平成15年４月	岩手医科大学医学部長（平成20年３月まで） 学校法人岩手医科大学理事、評議員（現在に至る） 岩手医科大学共同研究部門長 （平成20年３月まで） 岩手医科大学研究用電算機センター長 （平成23年３月まで）
平成15年11月	岩手医科大学脳神経外科診療科部長 （平成20年３月まで）
平成18年４月	岩手医科大学薬学研究センター長 （平成19年３月まで） 岩手医科大学先端医療研究センター長 （平成21年３月まで）
平成19年４月	岩手医科大学入学試験センター長 （平成20年３月まで）
平成20年１月	岩手医科大学学長（平成28年３月まで） 岩手医科大学知的財産本部長 （平成28年３月まで）
平成24年２月	学校法人岩手医科大学理事長（現在に至る）
平成26年４月	岩手医科大学名誉教授
平成28年８月	岩手医科大学名誉学長

【学外活動等】

（現職）

一般社団法人日本私立医科大学協会長
公益財団法人岩手県対がん協会理事長
岩手県ユニセフ協会長
一般社団法人岩手県医師会副会長など

（歴任）

一般社団法人全国医学部長病院長会議会長
一般社団法人日本脳神経超音波学会理事長
一般社団法人日本脳卒中学会理事長
公益社団法人日本アイソトープ協会理事
一般社団法人日本脳循環代謝学会理事
一般社団法人日本脳ドック学会理事
日本医学会幹事
日本学術会議連携会員など